

## インドネシア活動報告⑧

株式会社マジオネット

JICA 青年海外協力隊 2016 年度 2 次隊

山口 麗子

### 【今月(10/15~11/15)の活動】

- ・学校巡回(計 15 回) ・ごみ銀行訪問(計 1 回) ・紙リサイクルギャラリー訪問(計 3 回)
- ・エコツアー事前打ち合わせ参加(ランタン村訪問) ・Japan culture day に審査員として参加
- ・コンポストコンテストに審査員として参加 ・ラブアピ村役場での新聞工作講座にゲスト参加
- ・現地日本人宅にて廃油石鹼作成

#### ◎学校巡回

今月は、スケジュール上では 9 回の訪問予定であったが、学校でのコンポスト作成を始めた為、事前の打ち合わせと作成後のフォローで 2 校、2 日分の追加訪問を行った。また、その他 2 つの高校からセミナーの依頼があった為、通常よりも巡回回数が大幅に増える結果となった。今月のごみ銀行への訪問は新規で一箇所訪問しただけであるが、15 回の学校巡回の内、8 回は県内各地のごみ銀行スタッフと共に訪問し、授業を行った。学校とごみ銀行をつなげ、自身がいなくても地域の力で課題に取り組んでいけるよう基盤作りを行っているところである。



完成したコンポスト。この中に毎日生ごみを入れていくとごみは分解され、早くて1か月弱で肥料になる。コンポスト表面の白いものはごみを分解してくれる菌。

#### ◎紙リサイクルギャラリー訪問(計 3 回)



先月から訪問を始めた紙リサイクルギャラリーであるが、訪問以降、テレビ取材の申し込みが立て続けに入ったとのことで、ギャラリーの方から配属先へ協力依頼が 3 度あった。こちらからは普段訪問している学校の生徒、先生を複数名連れていき、作品の作り方を学ばせることができた。ギャラリーで学んだことが活かされるように、今後引き続き訪問していく学校ではフォローをしていく。

#### ◎Japan culture day に審査員として参加

10/29、マタラム第一高校にて「Japan culture day」が高校の日本語クラブの生徒主催で開催された。イベントの中では、「スピーチ」「カラオケ」「原宿ファッション」「コスプレ」のコンテストが開か

れ、自身は審査員として参加した。特に、「コスプレ」は応募者が50組ほどおり、盛況であった。マナーなアニメキャラのコスプレも多く、日本のアニメ人気の高さを知ることができた。



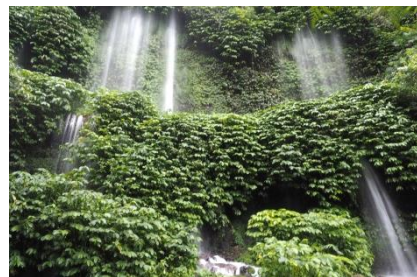
「原宿ファッションコンテスト」の出場者。ロンボクの伝統柄が強めて原宿ファッションとは別物であったが、デザインが凝っており、これを被服科でもない普通の高校生が作っていることに驚いた。

#### ◎コンポストコンテストに審査員として参加

10/30と11/4に自身が広めている高倉式コンポストのコンテストがゲルン第一高校にて行われ、審査員として呼ばれた為、参加した。制限時間内にいかに正確に培養液とコンポストとなる基材を作ることができるかを審査するコンテストであったが、参加者は10組のみ、2日目に至ってはそのうち6組しか参加しないほどの小規模なコンテストであった。作成手順も怪しいものが多く、順位付けには悩んだが、後日先生に話を伺ったところ、コンポストはどのチームも良い状態で発酵が進んでいたとのことだった。ある程度であれば、作成手順を変えたり、分量を間違っても大丈夫だということが分かったので、自身としても学ぶことのあるコンテストであった。

#### 【日常生活について～1年が経過して～】

10/25でインドネシアに赴任して丸1年が経過した。活動については、一時、学校巡回ができなくなり焦ることもあったが、現在は配属先である環境局、ごみ銀行、学校の先生、その他環境活動家など様々な環境関連分野の方と協力しながら活動できるようになり、活動の幅も次第に広がっている。日常生活では、余裕ができてから休日、島内にある観光スポット巡りをしたり、州都にあるモールでゆっくりしたりと楽しく過ごせている。大きく体調を崩すこともなく、健康的に過ごすことができている。残り1年と考えると長く感じるが、活動もプライベートも後悔のないよう充実した日々にしていきたい。また、現在、私は環境局局長の家でホームステイをしているが、来年1月より家を事務所として民間



観光スポットの「滝」。島中心部に富士山級の山があり、そこから流れる滝が数多くある。



ロンボク名物「プルチンカン」

企業に貸し出す予定だということで、配属先周辺の家に移住する計画を立てている。これまでは、ホームステイ先のホストマザー、ホストファザーの手厚い保護のもとで暮らしており、有難いと思う一方で、裕福な家庭環境を窮屈に思うことが数多くあった。一人暮らしになると、一般の住民に近い生活を送ることができると思うので、日々の生活でそれを学び、より住民の視点に立った活動ができるように努めていきたい。